

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：多文化共生センター大阪

1. 事業の概要

事業名称	外国人の社会参加を目指した文字学習支援と地域への文字学習支援活動の普及
事業の目的	事業の目的 日本に定住予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、社会参加へと導くことを目標とした文字学習支援を行う。これまでの事業実践の蓄積から得た知見を生かし「生活の漢字」学習支援方法の確立と地域への普及を行う。同時に、地域日本語教室等のコーディネート人材の育成とネットワーク化を図り、地域での文字学習支援の拠点作りの可能性を探る。 平成29年度の視点 日本語教育においては、子を持つ外国籍住民を主な対象とし、ひらがな・カタカナの学習から親が学校生活に関わるなかで必要とされる語彙を含んだ「生活の漢字」までを学習する教室を開催する。教室で使用する主教材は独自に開発し、子育て場面で必要な文字を学びながら、継続的な学習を可能にするための基礎力をつけるものとする。人材の養成・研修では、遠隔地域や立ち上げたばかりの事業を対象に、「生活の漢字」学習支援方法を学ぶ講座を出前型で行う。また、地域の日本語教室のコーディネーターや運営者を対象とした講座を開催し、コーディネーター、運営者の育成やスキルアップを行い、関係団体の連携を強めるためのネットワーク化を目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	現在の大阪市内および漢字学習支援の状況 2016年における大阪市内の保育園に通う外国籍の入所園児数は442人であり全体数(6,288人)の7.03%を占めている。この数に日本国籍を取得した外国人にルーツを持つ子どもの数を加えると全体の約1割の数になると言われている。 当センターでは大阪市内西淀川区に済む外国人住民を対象とし、2013年～2015年の2年間調査を行ったが、その結果、90年代に来日した日系人の2世代目にあたる者たちが現在親となり家庭をもっていることがわかった。2世代目にも拘わらず、日本社会とのつながりは薄く、日本人配偶者をもつ世帯は5%にとどまっていた。(調査対象の61世帯中58組)外国出身の保護者は家庭内はもちろん職場でも日本語を使う機会が少なく、日本語の会話だけでなく、読み書きもなかなか上達しない状況にあるということが判明した。漢字だけでなく、ひらがなの読み書きが難しい保護者もあり、学校のお便り・区役所や年金事務所から届く手紙を読むことはかなり難しい状況である。 大阪市内では、基礎日本語会話については、公的機関により教室が開催されている。しかし、文字習得に関しては、生活言語を基本とした基礎レベルの文字教育を行う教室がない。また民間の日本語学校においては生活言語が基本となっており、受講料も高価である。一方で、地域の日本語教室では、会話が中心の学習が行われており、漢字はあまり学習しないか、適切な指導がなされていないため、漢字学習の挫折につながっている。さらに教室で行われる漢字指導の多くが、日本語教育・漢字指導の専門家がプログラム策定や運営に関わることがないまま運営されている状況にある。さらに、学習環境面についても、保育が完備されている教室は少なく、文字習得のニーズが高い子育て中の外国人が参加できない状況にある。家庭で保護者による学習の手助けを受けられない子どもたちの支援の取り組みが各所で始まっている一方で、外国にルーツを持つ保護者を対象とした文字学習支援活動はあまり行われていない状況にあり、文字学習支援活動の普及が急務である。文字が読めないことが足かせとなり、家庭にひきこもってしまう例が多く見られる。これまでの参加者においては文字を学習することで、自信を持ち就職に至るケースも数件見られた。このように、引き続き文字学習支援を通してより多くの外国人の社会参加を促していきたい。
事業内容の概要	外国にルーツを持つ保護者の社会参加を目指した漢字学習支援 過去の参加者へのヒアリングから、文字学習開始の契機が「子どもの進学」と「日本人のパートナーの病気や死別」であることがわかった。特に近年、園や学校に通う子どもの保護者の参加が増加している。保護者の日本語能力が要因となり学校と深く関われないことは親と子のコミュニケーションにも弊害を及ぼすものである。このような事態にならないためにも、保護者が積極的に学校と関わるように、さらに生活に必要なことが自分で行えるために必要なリテラシー能力を「生活に必要な漢字から学習する」という方法を通して養成する。 文字学習支援活動の地域への拡大 会話中心の地域日本語教室に文字学習支援の必要性とその方法を普及するために、必要性を感じている団体に赴きノウハウを提供する。特に、活動をスタートしたばかりの教室や大都市ではないため養成講座に参加しづらい地域を対象とすることで、これまで文字学習支援について学んだことがないという支援者層にアプローチする。 持続的な教室活動のためのリーダー養成 他の日本語教室との連携および自立した日本語学習支援活動を行える団体をめざすために、大阪市内周辺の日本語教室のリーダーを集めコーディネート力の向上に努めるための養成講座を実施する。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	中村満寿央	多文化共生センター大阪
2	佐藤千佳	多文化共生センター大阪
3	高貴順子	大阪市総合生涯学習センター
4	野村京美	大阪市総合生涯学習センター
5	棚田洋平	部落解放・人権研究所
6	新矢麻紀子	大阪産業大学
7	新庄あいみ	大阪大学
8	御子神慶子	海外産業人材育成協会
9	川島孝子	元 とよなか国際交流協会
10	掛橋智佳子	関西学院大学



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月30日(火) 9:30～12:00	2.5時間	大阪市総合生涯学習センター	高貴順子、野村京美、粟田光、中村満寿央、佐藤千佳、新矢麻紀子、新庄あいみ、棚田洋平、川島孝子、御子神慶子	事業開始にあたっての全運営委員による会議(10:00～11:00) ・本年度の事業内容説明(漢字教室、養成講座、教材作成) ・大阪市立総合生涯学習センターへの協力依頼(申し込み受け付け・教室確保・広報等) 実働メンバーによる漢字教室開始準備(9:30～10:00、11:00～12:00) ・漢字教室チラシの内容(文面、募集人数、期間等)検討、決定 ・翻訳者と担当者決定・送付先検討、作業スケジュール決定
2	平成29年7月4日(火) 9:30～12:00	2.5時間	大阪市総合生涯学習センター	佐藤千佳、新庄あいみ、新矢麻紀子、棚田洋平、掛橋智佳子、御子神慶子	漢字教室開始準備 ・各回テーマ、担当者決定 ・各月最終回(パソコン使用回)は基本的にその月のまとめを行う。 市教委との会合準備 ・漢字教室の行政への移行について市に訴えるための市教委生涯学習部鎌田係長、指導部昌係長訪問予定。その際の内容と資料について打ち合わせ。
3	平成29年8月22日(火) 13:30～16:00	2.5時間	大阪産業大学梅田サテライト教室	新矢麻紀子、新庄あいみ、棚田洋平、川島孝子、御子神慶子	漢字教室の状況確認と問題点把握 受講者のレベル把握、教材のレベルと授業の進め方、教材の量等

4	平成29年8月31日(木) 9:30～12:0	2.5時間	大阪産業大学梅田サ テライト教室	新矢麻紀子、新庄あいみ、棚田 洋平、川島孝子、御子神慶子	養成講座開始準備 出前講座の内容検討。広報の方法等決定。 連続講座の時期、各講師への依頼内容確認。 基礎教育保障学会での発表について相談(「生活の漢字」の普及活 動)
5	平成29年11月21日 (火) 13:30～16:00	2.5時間	大阪産業大学梅田サ テライト教室	新矢麻紀子、新庄あいみ、川島 孝子、御子神慶子	会計経過報告 漢字教室状況確認。 養成講座連続講座の第1回～3回の日程・内容確認、チラシ内容検 討 養成講座連続講座の第4回の内容検討。受講者に発表を依頼する
6	平成29年12月19日 (火) 13:00～15:30	2.5時間	多文化共生センター 大阪	中村満寿央、新矢麻紀子、新庄 あいみ、棚田洋平、川島孝子、 掛橋智佳子、御子神慶子	中村理事への報告 漢字教室の実施状況・養成講座の実施予定・会計途中経過他 漢字教室1月～3月テーマ再検討、決定 養成講座受講者の漢字教室見学について日程等検討 養成講座出前講座 第1回豊岡の反省、第2回甲賀・第3回三田の内容検討
7	平成30年3月6日(火) 13:30～16:00	2.5時間	大阪市総合生涯学習 センター	新矢麻紀子、新庄あいみ、棚田 洋平、川島孝子、掛橋智佳子、 御子神慶子	漢字教室振り返り 養成講座振り返り 最終報告書内容検討
8	平成30年3月12日(月) 9:30～12:00	2.5時間	大阪市総合生涯学習 センター	高貴順子、野村京美、粟田光、 中村満寿央、新矢麻紀子、新庄 あいみ、棚田洋平、川島孝子、 掛橋智佳子、御子神慶子	9:30～11:00 実働メンバーによる会議 最終報告打ち合わせ、分担と内容最終確認 11:00～12:00 全運営委員による会議 実働メンバーより全運営委員に事業報告

(2)事業の実施体制

事業運営方針の決定など、事業の根幹をなす事項については、新庄、御子神、川島、棚田、外部運営委員の新矢、佐藤が行う。漢字教室と教材作成は新庄と御子神を中心に実施する。養成講座については棚田を中心に実施する。実務的な作業(教室補助および会計事務)は川島、その他の実務は新庄、御子神が担当する。漢字教室および養成講座の講師／補助者を、新庄、御子神、川島、佐藤、棚田、掛橋、田中、オーラヌットが担当する。大阪市総合生涯学習センターに、教室の優先受付、教室問い合わせ及び申し込みの受付など教室の運営管理面、外国人を対象とした相談機関への仲介等の協力を依頼する。

(3)地域における連携体制

大阪市立総合生涯学習センターに、教室の優先受付、教室問い合わせ及び申し込みの受付など教室の運営管理面、外国人を対象とした相談機関への仲介等で協力を得る。大阪府教育委員会と連携し、退職教員や指導員等の教室・研修への参加を促し、支援ネットワークの拡大に努める。また、多文化共生センター大阪と関係する他の外国人支援事業において文字学習支援を希望する個人や養成講座実施の希望があった場合は受け入れる。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:社会参加に繋がる文字教室 ～ひらがな・カタカナ・「生活の漢字」を学び、読み書きの自信をつける～】									
目的・目標	学習者が日常生活において、必要な漢字を認識すること、自律して学習できるようになることを目標とする。								
対象	漢字の読み書きを習得したいと思っている者、ひらがなとカタカナの読み書きがある程度できる者など								
取組の内容	生活の漢字だけでなく園や学校で必要とされる漢字語や読み書きの習得をカリキュラムに加え、日本語学習支援を文字という側面からアプローチする。また、習熟レベルが一定ではない学習ニーズに対応するため、30回という長期の教室開催を通して基礎力の養成を行う。								
実施期間	平成 29年 7月 25日～平成 30年 2月 27日					曜日・時間帯		火曜日(9:45～11:45)	
開催回数	全 60 時間 (1回 2時間 × 30 回)					開催場所		大阪市立総合生涯学習センター	
参加者	総数 43人 (日本語学習者 37人、指導者・支援者 6人)					使用した教材・リソース		オリジナル教材、生活の漢字く漢字みつけた	
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	7	10	3	3	0	2	3	0	2
	パキスタン(1人)、トルコ(2人)、アメリカ(1人)、マレーシア(1人)、中国からの帰化(2人)								
カリキュラム案活用	カリキュラム案で取り上げられている漢字の認識と直結した素材は抽出して本講座の内容に組み入れた。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成29年7月25日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	18	開講式	開講式／レベルチェック		新庄	御子神 新矢 オーラヌット
2	平成29年8月1日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	19	カタカナ ベーシック ストローク	漢字のなかのカタカナ、カタカナ復習 プリント、ベーシックストローク		新庄	川島 オーラ ヌット 田中
3	平成29年8月8日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	駅(券売機・乗車)	券売機・改札口・案内板で使われている漢字の学習		田中	川島 掛橋 オーラヌット
4	平成29年8月22日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	17	駅(路線図)	前回の復習、大阪環状線、大阪市営地下鉄に乗車するときに必要な漢字の言葉の学習		新庄	川島 御子神 オーラヌット
5	平成29年8月29日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	18	駅(復習)	第3・4回で学習した漢字・語彙の復習 駅構内図・路線図で使われている漢字		田中	川島 掛橋 オーラヌット
6	平成29年9月5日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	13	災害	パソコンを使用、パソコン用語の確認。災害の種類と警報の漢字の言葉から情報を得る学習。		掛橋	川島 オーラ ヌット 田中
7	平成29年9月12日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	災害	先週のパソコンでタイプしたり読んだりして学んだ災害の種類について、実際に漢字を書いてみる。		掛橋	川島 オーラ ヌット 棚田
8	平成29年9月19日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	災害	先週の続き。災害後半。警報・注意報や警報がどんな時に出るのか、漢字を書いてみる。また漢字教室がどんなときに休みになるのかを読み取る。		掛橋	川島 オーラ ヌット 小野木
9	平成29年9月26日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	18	災害	災害時に避難するとき読めたり、意味がわかったりするとよい言葉の学習。		掛橋	川島、新庄、 オーラヌット
10	平成29年10月3日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	13	買い物	パソコン画面で漢字がある風景を見ながら、文字を認識する。漢字語を入力する。 学習語: 花屋、薬屋、米屋、酒屋(町で見かける店の看板) 菜、酒(コンビニの看板) お買得、本日限り、広告の品、20%引、3割引、半額(スーパーの掲示、食品パックのシール)		御子神	川島、掛橋、 オーラヌット
11	平成29年10月10日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	17	食品表示	前回パソコンで学習した「花」「菜」「茶」「酒」「米」を書く。 「牛肉」「豚肉」「鶏肉」を勉強し、食品のパッケージの写真から学習した漢字を見つける。 アレルギー原因物質の表示を見て、物質名を確認する。		御子神	川島、オーラ ヌット、小野木
12	平成29年10月17日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	住所	日本の住所について説明(順序)、府、県、市、町、大阪、兵庫を一斉練習。その後、各自の住所の練習シートで練習。ふりがなのつけ方を説明、練習。枠の中に住所と名前を書く練習(大きい枠と送付状の小さい枠)、最後に漢字教室の申込書に住所と名前を記入		新庄	川島、掛橋、 オーラヌット
13	平成29年10月24日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	17	郵便受けに入っているもの	郵便受けに入っているものうち、アクションを起こさなければならぬ請求書・不在連絡票の情報を読み取るための漢字を確認する。		掛橋	川島 オーラヌット 田中
14	平成29年10月31日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	17	10月復習	10月に学習した食品表示・住所・郵便受けに入っているものの字を写真から探したり、タイプしたりする。郵便局の不在連絡票が入っている場合に、インターネットで再配達依頼ができるように、練習する。		掛橋	川島、オーラ ヌット、小野木
15	平成29年11月7日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13	アルバイト・パート	コンビニや飲食店で見かける求人広告の張り紙中の漢字。募集、時給、制服、交通費など。		御子神	川島、小野木 オーラヌット

16	平成29年11月14日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	応募する	ネット上の求人広告の漢字。未経験歓迎、職種、給与、勤務時間、勤務地、詳細、応募するなど。応募情報に記入する。	御子神	川島、オーラヌット、掛橋
17	平成29年11月21日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	年賀状	年賀状の基本知識(送る時期や意図等)。新年の挨拶。干支。住所の縦書きの練習。	田中	新庄、御子神、オーラヌット
18	平成29年11月28日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	17	年賀状	前回の復習。投函の際の注意。用紙の種類。年賀状文面作成。	田中	川島、オーラヌット、小野木
19	平成29年12月5日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	18	病院(診療科目)	病院(医院、診療所、クリニック)、各診療科目とどういときにその病院へ行くのかの確認。	新庄	川島、オーラヌット、掛橋
20	平成29年12月12日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	11	病院(問診票)	問診票の内容と書き方について、内科の問診表に沿って確認。主な体の部分と臓の名称と読み方を見ていった。	掛橋	川島、オーラヌット、小野木
21	平成29年12月19日 (火) 9:45～11:46	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	12	病院(診療の流れ、診察券)	病院での診療の流れ、診察券の読み方を確認したあと自分の診察券を読む練習を行った。	新庄	川島、オーラヌット、田中
22	平成29年12月26日 (火) 9:45～11:46	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	7	病院、薬	病院、医院、クリニック、診療所等の語を復習する。 薬の袋に書かれている内容を理解する。市販の薬の箱(「感冒薬」)に書かれている「用法・用量」という漢字を見つけて、のみ方を理解する。	御子神	川島、オーラヌット、田中
23	平成30年1月9日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	11	復習・作文	漢字の形や部首に注目してこれまで学習した漢字の復習を行った。また各自の家族について作文をし、ペアで読み合わせを行った。	新庄	川島、オーラヌット、掛橋
24	平成30年1月16日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	銀行	銀行の名前の読みの学習。口座・通帳等の各用語の漢字の練習。	田中	御子神、川島、オーラヌット
25	平成30年1月23日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	14	ATM	ATMの画面のことは、ATM引出の操作手順、書き練習(引出、振り込み、預入、暗証番号、確認、取消)	御子神	川島、新庄、オーラヌット
26	平成30年2月6日(火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	料理	料理のレシピを読みたいときに使う、基本的な動詞を確認し短文を確認した。また、学んだ語彙が使用されている食品のパッケージや看板を見て読む練習を行なった。	新庄	川島、オーラヌット、小野木
27	平成30年1月30日 (火) 9:45～11:46	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13	学校	日本の学校(保育所から大学まで)の語彙、学校設備や時間割に関係する語彙を確認。日本の教育について書かれている文章を読み、意味を確認した。	新庄	川島、オーラヌット、小野木
28	平成30年2月13日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	11	お便り	幼稚園からもらう「遠足のお知らせ」(おたより)を例に、案内の手紙を読むのに必要な基本的な漢字を学びつつ、日本の幼稚園文化に触れる。	掛橋	川島、田中、オーラヌット
29	平成30年2月20日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	学校の行事	学校の行事予定表を読む(1月～3月)学期、春夏秋冬、冬季休業、始業式、給食開始、下校、短縮、卒業式などの漢字と語を学習する	御子神	川島、田中、オーラヌット
30	平成30年2月27日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	12	修了式	評価シート記入、アンケート記入、修了式	新庄	御子神、オーラヌット、掛橋

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第28回 2018年2月13日】

学校をテーマとした2回目で幼稚園の遠足のお知らせを取り上げた。実際に幼稚園で配布されているお知らせを使い、まずは漢字を読み、写真やイラストと結び付けて意味の理解を行った。また遠足について、日本の幼稚園文化について説明を行った。あわせて行先や持ち物など学習者の母国での経験について話し合ったり、日本の幼稚園との違いを発見したりしながら学習をすすめていった。滞日年数が長く、日本で子育てをした経験のある学習者から、困ったり、戸惑ったことについての話を聞いたこともよい学びとなった。最後にお知らせの中から必要な情報を読み取る練習をし、実際にお知らせをもらったときに、自分が何をすればよいのかを確認した。(掛橋智佳子)



○取組事例②

【第4回 2017年8月22日】

「漢字が読めないので怖くて一人で外に出かけられない」という受講生の声を度々耳にする。駅をテーマとした回は、駅で使われる語彙を中心に一人で出かけられることを目標にした。まず駅の構内で使われる語彙、電車、地下鉄の語彙、路線図、梅田の地下街で見られる案内図を学習し、大阪の有名な観光地へ行くにはどの電車に乗り、どの駅で降りればいいのかというタスクを行った。その結果、最終アンケートにみられるように「電車で一人で乗れるようになった」「梅田周辺がよくわかるようになった」「駅で漢字を読むことができて、電車に乗れるようになった」や「電車の種類がわかるようになった」等の感想があった。講座で行った勉強が学習者の生活の役に立ったことが見て取れる。一人で何かができるようになったということが、各受講生の自信に繋がりが積極的な社会参加に繋がってほしいと思う。(新庄あいみ)



(2) 目標の達成状況・成果

本講座は、日常生活において必要な漢字を認識することができること、および、より多くの漢字を獲得するための自律的学習能力の養成、という2つのことを学習目標としている。目標の達成状況を検証するため、アンケートと診断テストを用いた。

アンケートは講座の最終日に当日出席の受講者12名に記入を求めた。アンケートの結果、漢字学習へのアプローチ、学習のテーマ、クラスの進め方に対する満足度は高かった。最終日が旧正月明けとなってしまう、出席者数が少なかったことが残念であるが、ほとんどの受講生が旧正月前まで継続的に参加し続けたことを鑑みると講座への満足度と漢字学習への意欲が窺える。

診断テストは開講時に一度実施しており、同じ内容で終了時にも実施することによって、この漢字教室に参加した結果、漢字の習得が進んだかどうかを評価した。最終日出席者の講座開始前・終了後の結果を比較すると、個人差はあるものの、全体的には認識できる漢字や書ける漢字が増えている。また、伸びが低い場合、ひらがな・カタカナの習得も不十分なままであるという傾向が見られる。ただ、今年度は開講式後、ひらがな・カタカナの練習を行い、毎回漢字のなかにあるカタカナ探しなど、カタカナの知識が漢字の認識に役に立つということを繰り返し伝えたためか、最初から継続的に受講した受講生たちはひらがな・カタカナ・漢字の数が増えたように思われる。

総合的には、認識できる漢字が増えており、また、自律的な学習への意識付けもできたと考ええる。

(3) 今後の改善点について

リテラシーの習得を目指し、まとまった文章を読んだり書いたりする練習を以前よりも増やしているが、まだほとんどの授業内容が語彙レベルの教育に留まっている。今後は、日本に暮らす外国人が自律的な生活を行い、社会参加へとつなげていくために必要な文章を自分で読んだり書いたりすることができる能力の育成も行う必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:①日本語教室コーディネーター—研修 ②生活者のための漢字学習支援者養成出前講座】

目的・目標	①地域日本語教室の運営者としてのコーディネーターの育成・スキルアップ ②当事業で実施する日本語教育(生活者のための漢字学習)プログラムの拡充								
対象	①地域日本語教室で実際にコーディネーターを務めている者、もしくはコーディネーターを志す者 ②地域日本語教室で実際に支援活動にあっている者、もしくは支援活動を始めようと考えている者								
取組の内容	①地域日本語教室を持続的な活動とするためには、学習者に対する個別の教授活動にあたる支援者のみならず、組織としての教室活動を運営するコーディネーターの存在が欠かせない。しかし、地域日本語教室の研修といえば、もっぱら支援者の養成・学習支援方法のスキルアップを目的とするものが多い。そこで、当事業では、「日本語教室を運営する」という観点から、コーディネーターの役割やその意義、求められる能力などについて、研究者・実践者等による講演や参加者間の討議などをとおして学び、参加者がコーディネーターとしての役割意識を深め、スキルアップすることをめざす。あわせて、参加者間の交流をはかることで、「点」としての各地域日本語教室間のネットワークづくりをすすめ、「面(地域)」としての定住外国人支援システムを構築することをめざす。なお、研修の一環として、当事業の日本語プログラムで実施する教室活動の見学や、そこで実際に学んでいる／学んだことがある学習者の「声」を聴く場を設定する。 ②当事業で実施する日本語教育プログラム「生活者のための漢字学習支援」を、他地域でもひろめるために、漢字学習支援の理念や実践などについて学ぶ支援者養成講座を出前講座として実施する。								
実施期間	①平成30年2月10日、20日、24日、3月3日、10日 ②平成29年10月8日、11月18日、平成30年1月14日、28日、29日、2月5日				曜日・時間帯		①各回、土曜日 13:30～16:30(3時間) +教室見学9:45～11:45(2時間) ②下記実施内容参照(3時間×2回×1団体、2. 5時間×2回×2団体)		
開催回数	全30時間 ①連続講座:3時間×4回+教室見学2時間×1回=14時間 ②出前講座:3時間×2回+2. 5時間×4回=16時間				開催場所		①大阪市立総合生涯学習センター研修室 ②出前講座受講団体の指定する会場		
参加者	総数 224人(延べ人数) (日本語学習者_____人、指導者・支援者224人など)				使用した教材・リソース		『新にほんごく生活の漢字』漢字みーつけた』(アルク、2011年)、各講師作成の自主教材 等		
出身・国内別訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
アメリカ(1名)、ブラジル(1名)									
カリキュラム案活用	カリキュラム案の「生活者の必要」「生活者の視点」というコンセプトは、本事業で行う漢字学習支援においても同様である。本講座は漢字学習に特化しているが、漢字を抽出する場面は、カリキュラム案が目標としている場面と共通しているので、カリキュラム案を受講生に紹介し、参考にしてもらった。								

養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名	
1	平成29年10月8日(日) 13:00～16:00	3	豊岡市民プラザ	14	①人権保障としての日本語学習支援 ②「生活の漢字」とは?～理念編	①本講座の前提となる、地域日本語教室の理念や現状、人権保障という観点からの日本語学習支援の意義について学ぶ。 ②「生活者としての外国人」にとって継続できる漢字学習とは?…適切なシラバス・教材。漢字学習に伴う生活範囲の拡大、自己イメージの変化。漢字探しの活動。	御子神	棚田川島	
2	平成29年11月18日(土) 13:00～16:00	3	豊岡市民会館	13	③「生活の漢字」とは?～実践編 ④まとめ	③漢字学習支援にかかわる学習支援活動や教材づくりについて、具体的な実践をとおして学ぶ。 ④評価とふりかえり	新庄	棚田	
3	平成30年1月14日(日) 13:30～16:00	2.5	甲賀市国際交流協会自主活動センターきずな	18	①人権保障としての日本語学習支援 ②「生活の漢字」とは?～理念編	上記1 と同じ	棚田御子神	棚田川島御子神	
4	平成30年1月28日(日) 13:30～16:00	2.5	甲賀市国際交流協会自主活動センターきずな	16	③「生活の漢字」とは?～実践編 ④まとめ	上記2 と同じ	新庄	棚田御子神	
5	平成30年1月29日(月) 12:30～15:00	2.5	三田市国際交流協会三田市まちづくり協働センター	24	①人権保障としての日本語学習支援 ②「生活の漢字」とは?～理念編	上記1 と同じ	棚田御子神	棚田掛橋御子神	
6	平成30年2月5日(月) 12:30～15:00	2.5	三田市国際交流協会三田市まちづくり協働センター	21	③「生活の漢字」とは?～実践編 ④まとめ	上記2 と同じ	新庄	棚田掛橋	
7	平成30年2月10日(土) 13:30～16:30	3	大阪市総合生涯学習センター	32	地域日本語教室におけるコーディネーター—の役割とは?	地域日本語教室の運営という観点から、コーディネーターの役割とその意義について理論やワーク、さまざまな事例等をとおして学ぶ。	山野上	棚田新庄	
8	平成30年2月20日(火) 9:45～11:45	2	大阪市総合生涯学習センター	8	漢字教室見学	当事業で実施する日本語教育プログラム「生活者のための漢字学習支援」の説明と、教室見学の実施。	新庄	棚田	
9	平成30年2月24日(土) 13:30～16:30	3	大阪市総合生涯学習センター	26	地域日本語教室におけるコーディネーター—の仕事～実践報告	地域日本語教室でコーディネーターの役割を務めている方の実践報告をとおして、コーディネーターの仕事について具体的に学ぶ。	久保鶴飼	棚田御子神	
10	平成30年3月3日(土) 13:30～16:30	3	大阪市総合生涯学習センター	26	地域日本語教室間のコーディネート	地域日本語教室間のコーディネートの意義について、具体的な教室間ネットワーク事業の取組等をとおして学ぶ。	米勢	棚田新庄	
11	平成30年3月10日(土) 13:30～16:30	3	大阪市総合生涯学習センター	26	日本語学習のコーディネート～漢字学習支援の実践を事例に～	地域日本語教室における学習のコーディネートの意義について、「生活の漢字」学習支援プログラムの事例をとおして学ぶ。	棚田新庄	棚田新庄御子神	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1～2回 平成29年10月8日、11月18日】

第1～6回は、研修機会の少ない遠隔地に出かけ、「生活の漢字」の理念と学習支援方法に関して講義とワークショップを行い、人材を養成する「出前講座」である。今年度は3地域(兵庫県但馬地方、滋賀県甲賀市、兵庫県三田市)にて、1地域2回の連続講座を開催した。第1～2回の但馬地域の講座は、兵庫県国際交流協会との共催であった。但馬地域は、空白地域解消事業として近年設置された日本語教室からも、豊岡市の活動歴の長い2団体からも多くの参加者があり、今後の活動に有効な研修であったと好評であった。参加者各自が写真撮影をし、それを素材として活動案をつくるグループ/ペアワークは特に実践的で有効であったというアンケート結果であった。また、兵庫県国際交流協会との連携を通して協力関係が構築できたことも今後に向けての大きな成果である。



○取組事例②

【第7～11回 平成30年2月10日、20日、24日、3月3日、3月10日】

第7～11回は、地域日本語教室の運営という観点から、コーディネーター養成講座を実施した。地域日本語教室におけるコーディネーターの役割やその意義について、理論と実践、教室内と教室外のコーディネート、学習プログラムのコーディネートといったさまざまな論点から学ぶことができる講座であった。あわせて、3月10日の講座内容にかかわって、学習プログラムのコーディネートの具体的な事例として教室見学の機会を設定した。講座会場である大阪府内の各地域以外に広島、滋賀、兵庫、京都も含めた多くの地域から、当初想定していた定員(20名)を越す30名以上の参加申込があり、「コーディネーター養成」のニーズがあることを実感することができた。また、アンケート結果等からは、講座内容はもちろんこと、参加者どうしの意見交流をとおしても、参加者が多くのことを学んだことがわかる。



(2) 目標の達成状況・成果

各回の講座終了後にアンケートを実施し、受講者の講座内容に対する評価や理解度、今後の日本語支援活動への影響について把握することに努めた。アンケート結果を見る限りでは、各回の講座内容に対する評価、理解度はおしなべて肯定的な意見が多く、本講座の目的・目標を達成できたと思われる。また、連続・養成講座とは別途、出前講座を実施することで、講座への参加の機会をより多く設定することができた。

(3) 今後の改善点について

第1～4回の連続講座(+教室見学1回)と、出前講座3回をあわせて計5回の養成講座を実施し、講座受講の機会をひろく提供することができた。ただ、前者の連続講座については、その趣旨・内容を「コーディネーター養成」に設定したため、当初はその対象を限定(コーディネーター経験者ならびに、コーディネーターをめざす者)しようとしたが、参加申込が伸びなかったためひろく広報をしたところ、定員を越す参加があったものの、当講座の趣旨・内容を理解していない者も一定数参加することとなり、講座の進行等に多少の支障をきたすこととなった。講座の趣旨・内容によって、その想定する対象者への広報のしかたの工夫や、場合によっては条件付参加(コーディネーター経験者のみに限定、等)についても検討したい。後者の出前講座については、例年以上に、各受入団体・教室において講座内容(「生活の漢字」学習支援)をふまえた実践活動の導入・展開の姿勢が感じられた。しかし、そのフォロー(実際に実践されているかどうか、実践活動への助言等)はできておらず、次年度以降はそのフォローについても内容に含めるかたちで、講座を企画・実施する。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：子育ての場面から文字を学ぶ】			
目的・目標	生活場面で目にする漢字の意味を理解し、必要な対応ができる。		
対象	生活者としての外国人、保護者である外国人		
教材の内容	各ユニットのテーマは基本的に生活場面とし、そこで見る漢字語を学習する。写真を用いて、場面中の漢字語を認識する。お便りなどの書類では、必要な情報がどこにあるかを学び、情報を得るために最低限必要な漢字を学習する。 場面例：スーパー（食品表示や各種の掲示）、保育所・幼稚園・学校（掲示、お便り等）、銀行（銀行名、通帳、ATMの画面等）		
実施期間	平成29年5月30日～平成29年3月12日	成果物のリンク先	
作成教材の想定授業時間 コマ数と頁数	1回 3時間 × 22回 = 66時間分	教材の頁数	217 ページ
カリキュラム案活用	「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的カリキュラム案について」では、生活場面について主に会話が扱われている。カリキュラム案との対照表を作り、カリキュラムに沿って、各場面で目にする漢字の学習が行えるようにする。		
教材の活用方法	日本語教室でボランティア等パートナーとおしゃべりしながら用いることを想定している（「教材の使い方」参照）。漢字を学習するだけでなく、場面にまつわる情報を得ながら、楽しく学ぶ。また、学習した漢字を後日生活の中で目にするのが学習した内容を定着させ、さらなる学習への動機づけを生む。		
今後の活用の予定	養成講座の受講者が所属している各教室や活動場所に紹介し、各活動場所で使ってみたいというご意見を頂いている。また、今後とも機会を見つけて、「生活の漢字」の普及に努め、文化庁NEWS上の教材の活用を勧める。		

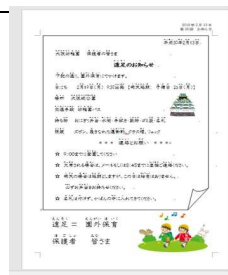
2 駅・路線図 子どもと出かけよう

読みまじょう、駅



おはきかえき
大阪 駅

おのしとすまは大阪駅にいります。
大阪駅は人があいです。



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

日本に定住予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、社会参加へと導くことを目標とした文字学習支援を行う。これまでの事業実践の蓄積から得た知見を生かし「生活の漢字」学習支援方法の確立と地域への普及を行う。同時に、地域日本語教室等のコーディネート人材の育成とネットワーク化を図り、地域での文字学習支援の拠点作りの可能性を探る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

漢字教室及び養成講座の受講生に実施したアンケート結果及び作成した教材から、本事業における目標である「日常生活において必要な漢字を認識すること、また自律して学習することができるようになること」また「漢字学習支援者の養成」は達成できたと思われる。なお、アンケートの集計結果は別に添付した通りである。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

作成した教材に、標準的なカリキュラム案と関連する項目がある場合はそれを示した。また養成講座にて受講生に紹介し、活用方法を考えた。標準的なカリキュラム案について気づいた点は、標準的なカリキュラムは生活場面について様々なケースが挙げられているので参考になるが、会話の習得が主であり、読み書きについては触れられていない。今後は文字習得の側面においても標準的なカリキュラムを作成する必要があると考えられる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

大阪市立総合生涯学習センターと運営面で連携し、協力を得た。
漢字教室受講者が本講座終了後に居住地域の日本語教室で継続的に学習ができるように、大阪府内の日本語教室一覧を受講者に配布した。また、養成講座の受講生の活動先の教室にも参加できるように、橋渡しを行った。
大阪市教育委員会との面談を行い、今後の相談を行った。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

大阪市役所の保育所関連の部署と協議の場を持ち、漢字教室の説明を行い、周知の協力を依頼した。
大阪市内の識字・日本語教室と近隣の市の国際交流センターにチラシを郵送した。また、当事業運営メンバー各自の関係先でも配布した。
多文化共生センター大阪・大阪市立総合生涯学習センターのホームページで広報した。
本事業での実践を参考にしたいということで、見学者を受け入れた。(大阪市立夜間中学校教頭)
漢字学習支援者のための講座実施の依頼があり、本事業外で地域に出向いて、漢字学習支援者養成講座を行った(にほんごアシス)。

(6) 改善点、今後の課題について

漢字教室においては、保育を希望する年齢層への周知が難しかった。周知の方法を工夫し、必要な人に情報が届くようにしたい。また、講師の養成という側面から経験の浅い講師に講座を多く担当してもらった。養成という側面においては効果があったと思うが、受講生から「分かりにくい」という声があり教室を辞めてしまった受講生がいたことは残念である。経験の浅い日本語教員に講師を依頼する際には配置に工夫を行う必要がある。養成講座においては、出前講座を行い、多数の申し込みがあった。行った教室の中には「教える」ことに傾きがちな団体も見られたので、学習支援者の姿勢についても考える必要がある。またその後、漢字学習支援を始めたのかどうか、事後調査も必要である。「コーディネーター養成講座」については、多くの参加者があり好評を得た。こちらにおいても、講座の効果を知るために、講座受講後に各団体でどのような変化があったのかをできる範囲で聞き取っていく必要がある。漢字学習教材は、標準カリキュラムとリンクするものとした。事業全体については、常時教室が設置できないことが課題である。受講生は、昨年度漢字教室に参加していても、数ヶ月間が空くと内容を忘れてしまう人も少なくない。自分で学習を続けているものの難しい部分があるという意見もある。このように、今後は単発的な事業ではなく、継続的に実施できるような形態が必要ではないかと思う。そして将来的には、諸外国のように、定住外国人が無料か格安で生活のための日本語を学べる公的な教室の設置が望まれる。特に本事業の漢字教室に参加する学習者は日本人の配偶者が多く、今後も日本に住み続ける予定の人々である。このように日本社会の一員として生活する外国人のために生活に必要な日本語を学ぶ教室が求められていると感じた。

(7) その他参考資料

漢字教室アンケート結果・チラシ